

公民館利用者における学習活動・地域活動と社会貢献意識

永野ひとみ

1 はじめに

急速な高齢化の進展により、国際的にも高齢者政策は重要課題となって久しい。その高齢者政策の根幹となる高齢者観の概念も時代と共に変化し、近年 WHO や西欧社会、また日本でも、アクティブ・エイジング理論を中心に、高齢者の社会参加・社会貢献活動が推進されている。山口県においても、アクティブ・エイジングを背景とした「生涯現役社会づくり」の取り組みがなされているところである。高野によれば、アクティブ・エイジング論とは、「高齢社会のひとつのモデルとして、従来の単なる就労継続だけにとどまらず、就労も含む多様な社会参加活動への参加を通じて高齢者の社会的役割が維持されることを社会全体として目指す社会」¹⁾ である。また、「高齢者の生きがい感や主観的幸福感の維持拡大と、社会参加活動への参加が相関すること」²⁾ 等の理論的研究がなされてきている。

また、地域コミュニティにおいて、高齢者の地域づくりへの参画、活躍が期待されている。特に、老人クラブや、社会福祉協議会、NPO や市民活動団体等で活躍している高齢者が注目されているが、その地域活動の場として、公民館がどのように活用されているかに関しては、ほとんど目が向けられていない。

公民館は、1945 年、当時の文部省の寺中作雄によって考案され、第二次世界大戦後の荒廃した社会の中で、「民主主義の訓練場」、「郷土振興の機関」、「産業振興の原動力」、「文化交流の場」として、地域社会を興していくことを目指して設置された社会教育施設である。公民館の役割は、地域の人づくり・絆づくりを通じての地域づくりとされており、キーワードは「集う・学ぶ・結ぶ」である。

防府市教育委員会の『防府市公民館等利用者アンケート調査及び防府市の生涯学習に関する意識調査（2010）』によれば、「公民館利用者の約 3 割はボランティア活動に参加³⁾」しているが、ボランティア活動への参加はそれほど多くないことが示唆されている。

本稿は、公民館利用者を対象に、ボランティア活動の基礎をなす社会貢献意識が、公民館における学習活動・公民館を拠点にした地域活動と、どのような関係にあるかを明らかにし、公民館利用者が社会貢献活動を促進する人的資源となり得るのか否かを検討することを目的とする。

2 調査対象公民館と調査の概要

(1) 調査対象地の公民館

山口県防府市には公民館は 15 館あり、それぞれの地区を対象とし、小学校区に 1 館ずつ設置されている。15 館のうち、10 館は市役所の出張所を併設しており（牟礼、向島、中関、華

城、西浦、右田、富海、小野、大道、野島)、他の5館は公民館単独施設である(松崎、佐波、勝間、華浦、新田)。防府市の平成24年度の全公民館の利用延べ人数は、191,921人⁴⁾である。因みに防府市の人口は、116,030人⁵⁾である。

15公民館の中から、利用状況、利用率、地域の特性等を考慮し、次の4館を調査対象とした。すなわち、学習活動より地域活動が活発な松崎公民館(商店街地域)、地域活動よりも学習活動が活発な華浦公民館(官公庁・教育機関地域)、学習活動・地域活動共に活発な華城公民館(半農・半街地域)、学習活動よりも地域活動が活発な小野公民館(農村地域)を調査対象とした。

(2) 調査の概要

① 調査項目

公民館利用者の属性、公民館で行われている学習活動への参加状況、公民館を拠点に行われている地域活動への参加状況、および、社会貢献意識である。

② 調査対象

防府市の4つの公民館で学習している利用者の中から、無作為に100人を抽出、また、公民館を利用しての地域活動に参加しているものの中から無作為に50人を抽出し、各公民館150名ずつ、計600名を抽出した。学習活動参加者は公民館長、地域活動参加者は、活動団体の会長へ、それぞれ抽出を依頼した。

③ 調査方法

学習活動者への調査は、学級・講座・サークルの終了後に、公民館で記入してもらった。地域活動者への調査は、地域での会合等の開催日に、会合終了後その場で記入してもらった。その場で記入できなかった場合には、調査票を配布し、郵送で回答してもらった。

④ 調査期間

平成25年9月1日から9月30日である。

⑤ 調査票の回収結果

有効回収票は509で回収率は84.8%であった。また、それぞれの地域におけるアンケートの回答者数は、松崎135人、華浦127人、華城126人、小野121人である。

3 公民館利用者のプロフィール

まず最初に、公民館利用者の属性をみていきたい。

性別では、図1にあるように、男性152人(29.9%)、女性357人(70.1%)で、7割が女性であった。

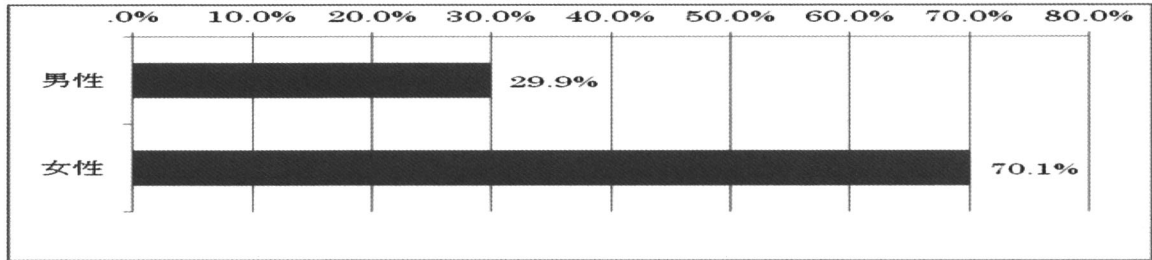


図 1 性別

利用者の年代は、70歳代が39.5%（201人）と最も多く、次いで60歳代が31.0%（158人）、80歳以上が12.6%（64人）となっていた。約8割（423人）が60歳以上である。

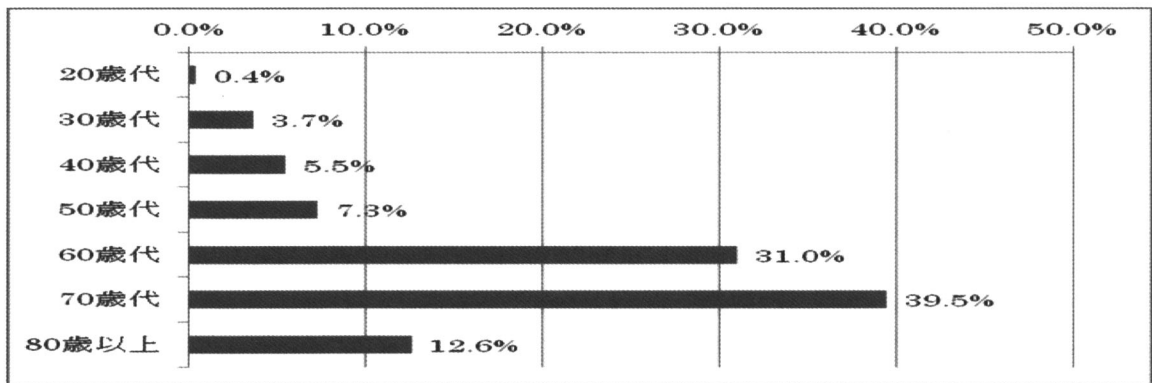


図 2 年代

職業は、無職が一番多く44.5%（219人）、次いで会社員16.9%（83人）、その他10%（49人）の順となっていた。これは7割が女性であり、また60代以上が多いことから既に第一線から退いた者が多いことが推察される。

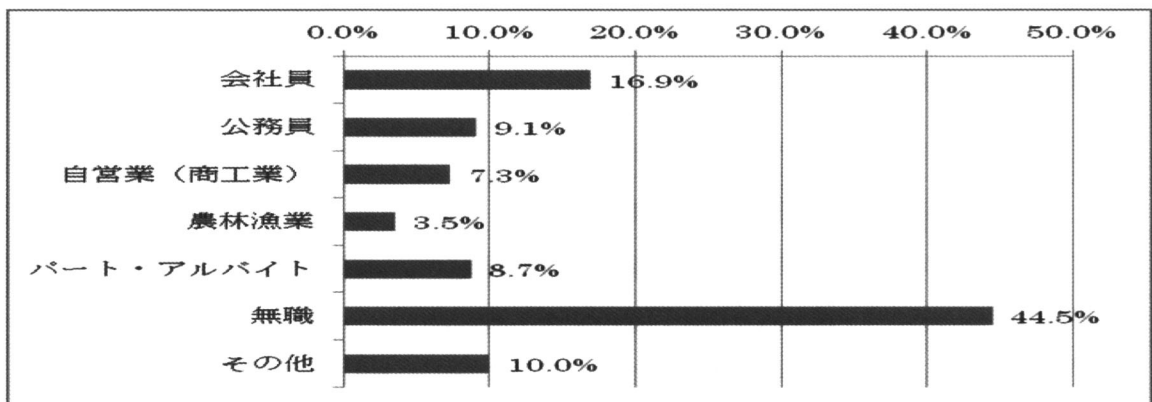


図 3 現在の職業または最も長く従事していた職業

最終学歴は、高等学校卒業が最も多く59%（286人）で約6割、次いで大学卒業以上16.9%（82人）、短大・専門学校15.5%（75人）の順であった。

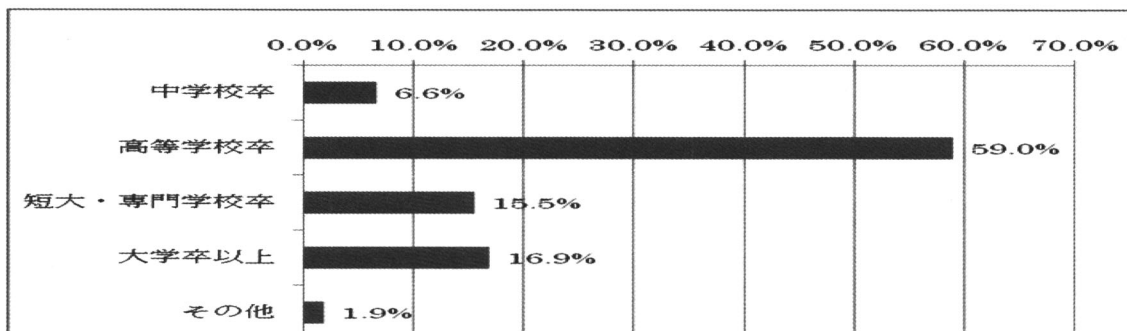


図 4 最終学歴

居住歴は、30年以上が最も多く71%（348人）で全体の7割を占めている。次いで20年～30年未満が8.8%（43人）、10年～20年未満が6.7%（33人）となっており、全体の約8割が20年以上と比較的居住歴が長い人が多い。

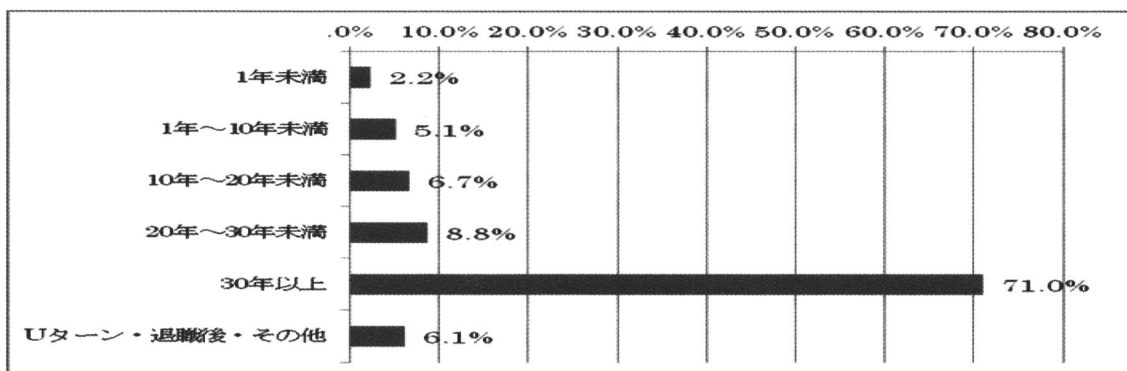


図 5 居住歴

世帯構成は、夫婦のみ世帯が最も多く42.3%（207人）と半数近くあり、次いで親と子の二世帯世帯29.4%（144人）、ひとり暮らし世帯14.7%（72人）の順になっている。

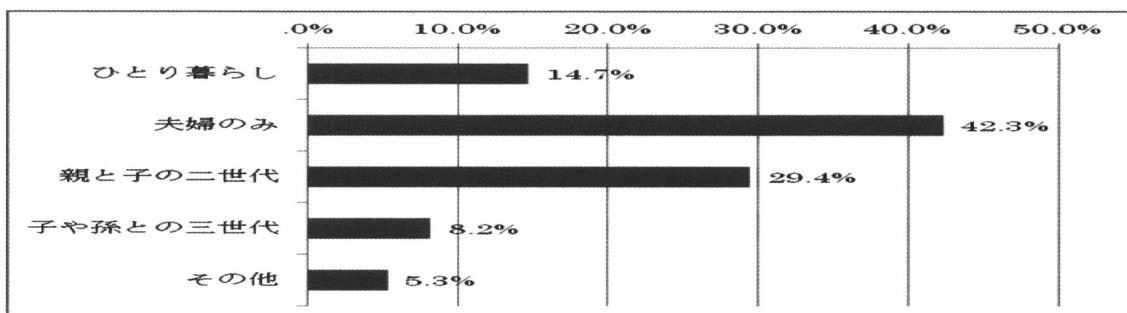


図 6 世帯構成

上記から、この調査からみる公民館利用者は、7割が女性であり、60代以上が8割と高齢者が多く、高等学校卒業以上の学歴を有し、また、その約8割は20年以上地域に居住している人々である。

4 公民館における学習活動

公民館は先にも述べた通り、戦後すぐに設置され、当初よりその役割を「学ぶ・集う・結ぶ（地域と住民等）」とされており、社会教育法に則って、各種の学級・講座等の振興が図られている。防府市での「学ぶ」活動は、大別すると2つあり、市の委託事業（税金）として開催されている高齢者教室・女性学級等と、自主的活動（自己負担）としての講座やサークル活動等である。

学習活動の参加状況は、女性学級（28.2%・137人）と高齢者教室（20.1%・98人）への参加者が多く、料理講座11.7%（57人）や、健康関連講座10.2%（43人：健康体操・自彊術）、その他各種講座やサークル等幅広い参加がみられ、その活動は多様である。また学習活動に参加していない人も23.8%（116人）あり、これらは公民館を地域活動の場としている人々である。

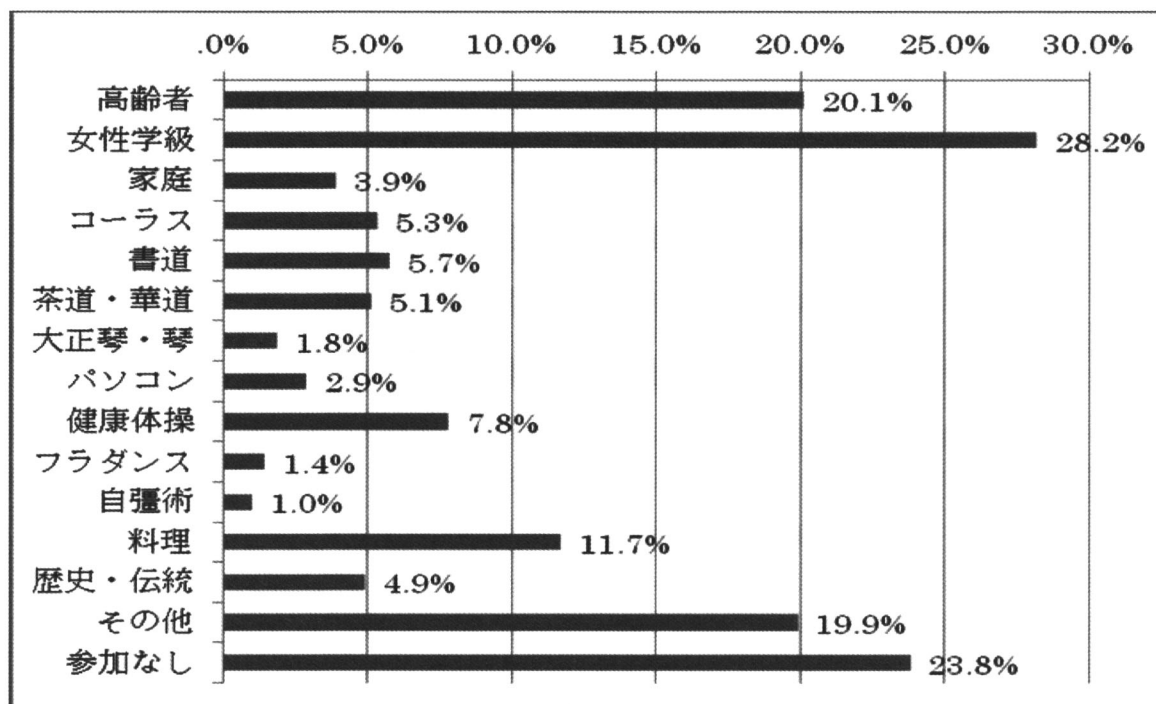


図 7 学習活動の参加状況（複数回答）

学習活動を始めたきっかけは、「知人・友人の輪が広がる」が最も多く53.3%（195人）、次いで、「趣味や教養が深まる」が45.9%（168人）、「健康維持のため」と「生活のほり・目標」が、共に同数の26.8%（98人）、「楽しそうだから」17.2%（63人）の順になっていた。

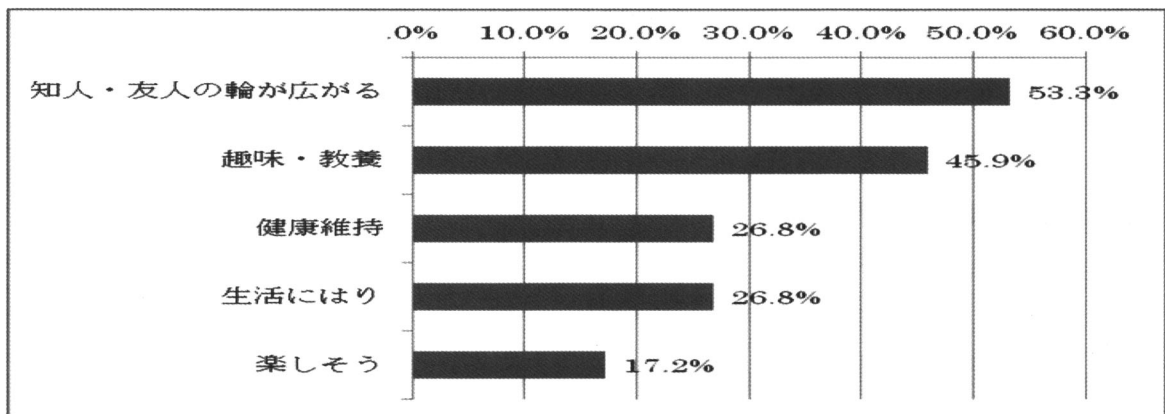


図8 学習活動に参加したきっかけ（複数回答）

学習活動に参加した結果は、参加したきっかけと同じく、「友人・知人の輪が広がった」が最も多く90.7%（331人）で全体の約9割、次いで、「生活に目標やはりができた」が77.8%（284人）で8割近く、「趣味や教養が深まった」が73.2%（267人）と約7割、「健康維持に役立った」が68.2%（249人）で6割強の順であった。一方で、基礎的でもの足りないと感じている人も15.6%（57人）いた。

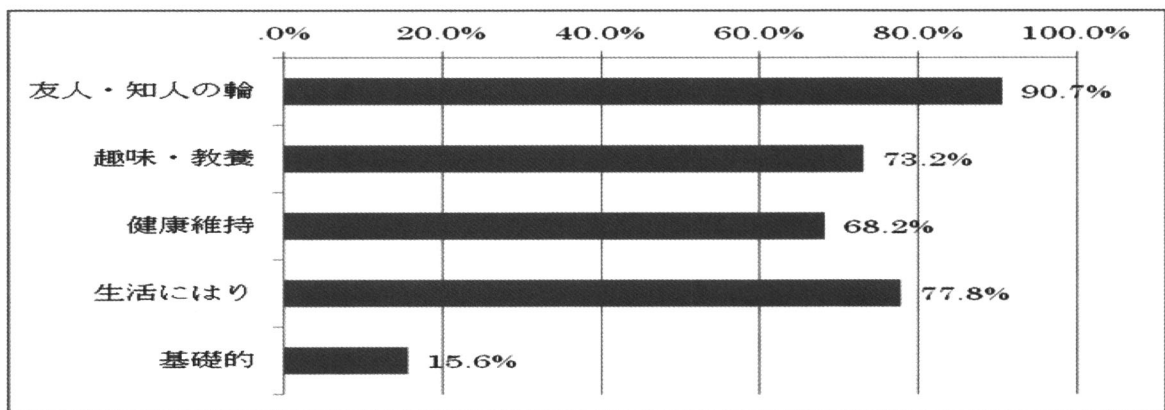


図9 学習活動に参加した結果（複数回答）

このように、公民館で学習活動をしている人たちは「知人・友人の輪が広がる」ことや「趣味・教養を深めるため」に学習活動に参加し、その参加を通して、人間関係が形成され、日々の生活の目標や健康維持につながっており、高い満足感を抱いていることは明らかである。

5 公民館拠点の地域活動及び、社会参加活動

公民館を拠点に行われている地域活動とは、地区関係団体（自治会、文化推進協議会、体育推進協議会、交通安全推進協議会、環境美化推進協議会、社会福祉協議会、子ども会関係等）、老人クラブ、女性団体（婦人会（部）、食生活改善推進協議会、母子保健推進協議会等）等である。

これは公民館の「集う・結ぶ」役割の一環であり、活動自体は住民の自主性に負うところが大きい。

各種団体・組織等への所属状況は、自治会への加入が76.6%（361人）と最も多く、約8割近くが活動している。公民館外で行われる趣味やサークル等の団体への加入32.9%（155人）、社会福祉協議会加入24%（113人）、老人クラブ加入23.6%（111人）、女性団体加入13.2%（62人）、子ども会加入6.4%（30人）、PTA加入5.3%（25人）、NPO加入3.8%（18人）である。

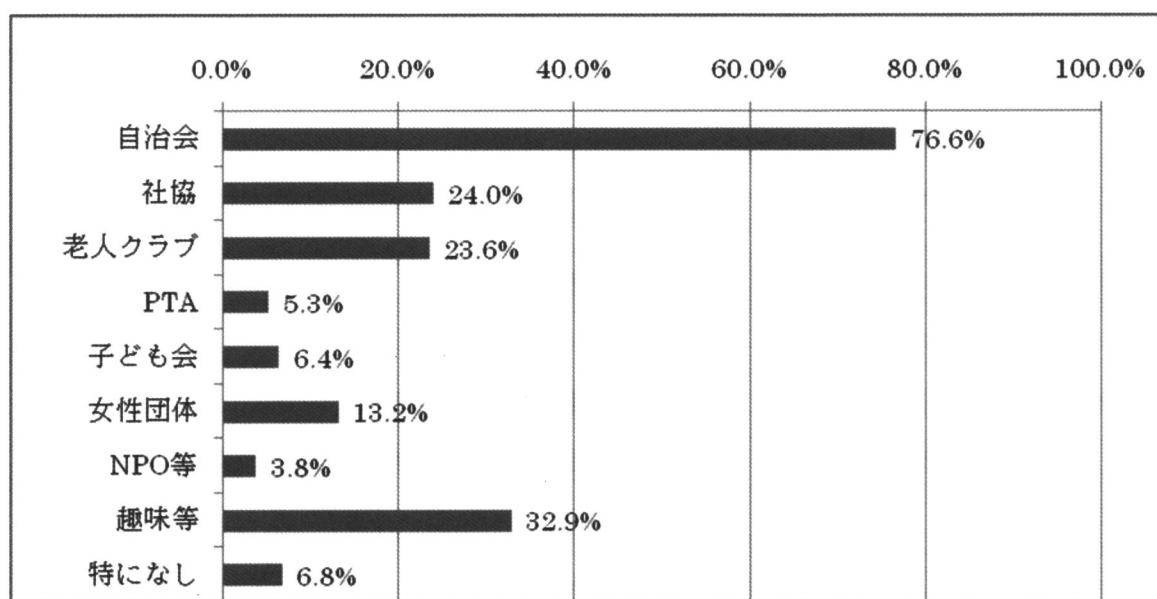


図10 所属団体・組織等の参加状況（複数回答）

図11は、地域活動への参加状況である。地域での文化祭やスポーツ大会等の世話や手伝い活動が65.5%（285人）と最も多く、次いで環境美化や草刈り、ゴミ搬入等の生活環境改善活動45.3%（197人）、高齢者支援活動37.9%（165人）、教育・文化活動27.1%（118人）、子どもたちへの交通安全の見守りや、学習、伝統文化の継承等の子育て支援活動19.3%（84人）、防犯や防災等の安全管理活動17.2%（75人）の順になっていた。

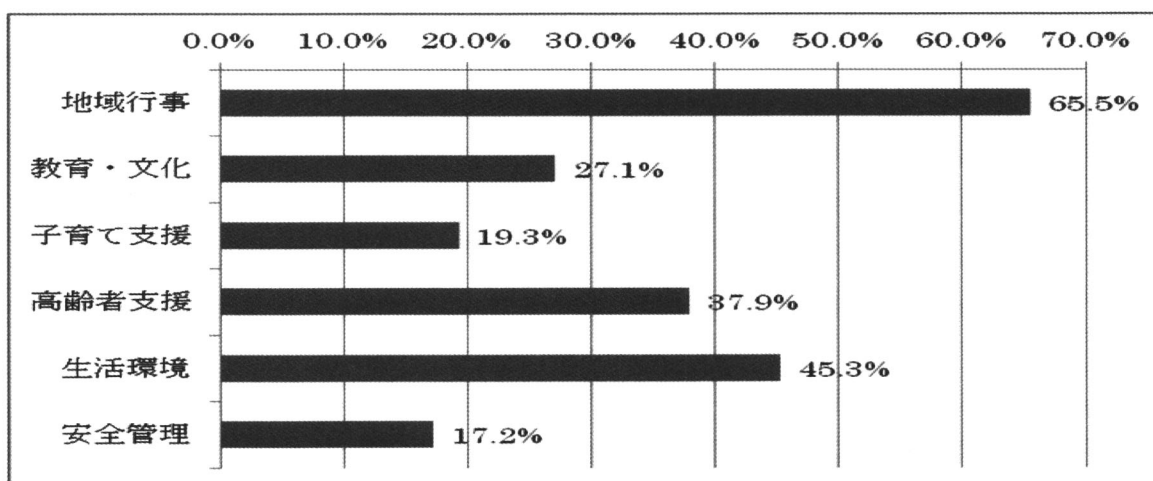


図 11 地域活動への参加状況（世話や手伝いをしている）（複数回答）

地域活動をしている最も大きな理由は、「地域の役に立つ」が 40.5%（173 人）で最も多く、次いで「友人・知人の輪が広がる」27.9%（119 人）、「生活の目標やほりになる」12.6%（54 人）、「健康維持に役だつ」9.8%（42 人）の順になっている。約 4 割の人が「地域の役に立つ」ために地域活動をしていると回答している。

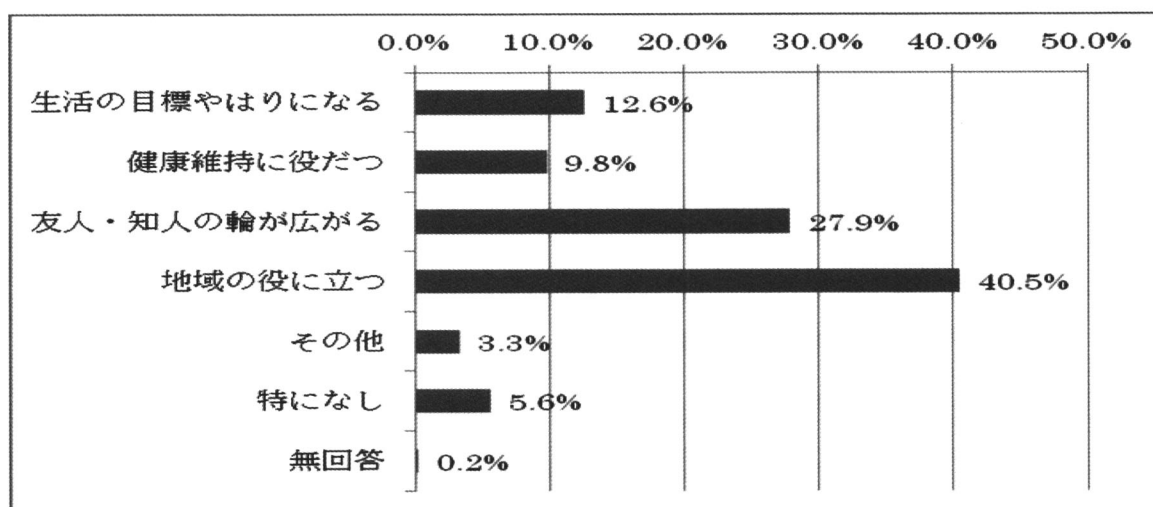


図 12 地域活動をしている最も大きな理由

地域活動に参加した結果は、図 13 にあるように、「友人・知人の輪が広がった」が最も多く 89.5%（393 人）、次いで「地域の役に立つことができた」78.0%（341 人）、「健康維持に役だった」、「生活に目標やほりができた」が共に、65.1%（285 人）、「生活が楽しく充実してきた」64.8%（283 人）の順であった。

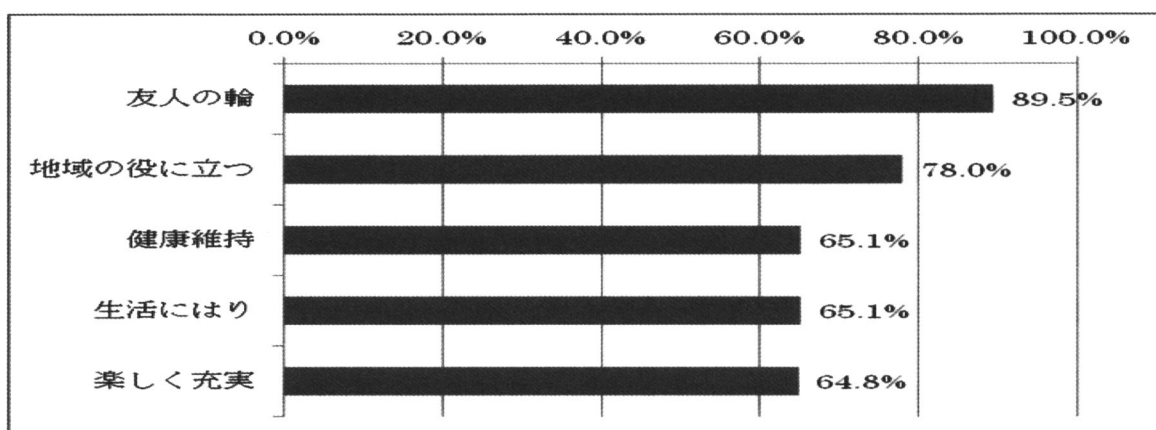


図 13 地域活動に参加した結果（複数回答）

以上から、公民館利用者の約 8 割、390 名余りが地域での「世話や手伝い」をしていることがわかる。また、「学習活動には参加したことがない」と回答している人が 116 人いる。つまり、公民館を利用している人の多くは、学習活動のみではなく、何らかの地域活動に参加していると捉えることができる。また地域活動への参加を、延べ人数で見ると 924 人となり、一人の人が複数の地域づくりへ参画している状況が窺える。中には、地域行事の活動、教育・文化活動、子育て支援活動、高齢者支援活動、生活環境改善活動のいずれにも参加している 70 歳代の女性もいた。それらの社会貢献活動に取り組む理由は「地域の役に立つことができる」からであり、また地域活動に携わった結果として、「知人・友人の輪が広がり、地域へ役立つことができた」と生活のはりや目標ができ、自己肯定感につながっていることが浮き彫りになっている。

6 社会貢献意識と学習活動・地域活動

「あなたは、地域（地域の人）や社会のために役立つことをしたいと思われませんか」という設問に対して、「できればやりたい」が 67.3%（311 人）と最も多く、次に「積極的にやりたい」21.4%（99 人）、「あまりやりたくない」7.6%（35 人）、「やりたくない」1.1%（5 人）の順であった。「積極的に」と「できれば」を合わせると 88.7%と 9 割近くであり、「あまりやりたくない」等を大きく上回り、高い社会貢献意欲が示されている。

性別に社会貢献意識をみると、図 14 にあるように、「積極的にやりたい」では男性が 33.3%（50 人）、女性は 15.7%（49 人）で、男性の方が多い。「できればやりたい」で見ると女性が 71.2%（222 人）と多く、男性は 59.3%（89 人）である。「積極的にやりたい」と「できればやりたい」を合わせると、男性は 9 割以上、女性も 9 割近くの人が「地域や社会のために役立つことをしたい」と回答している。

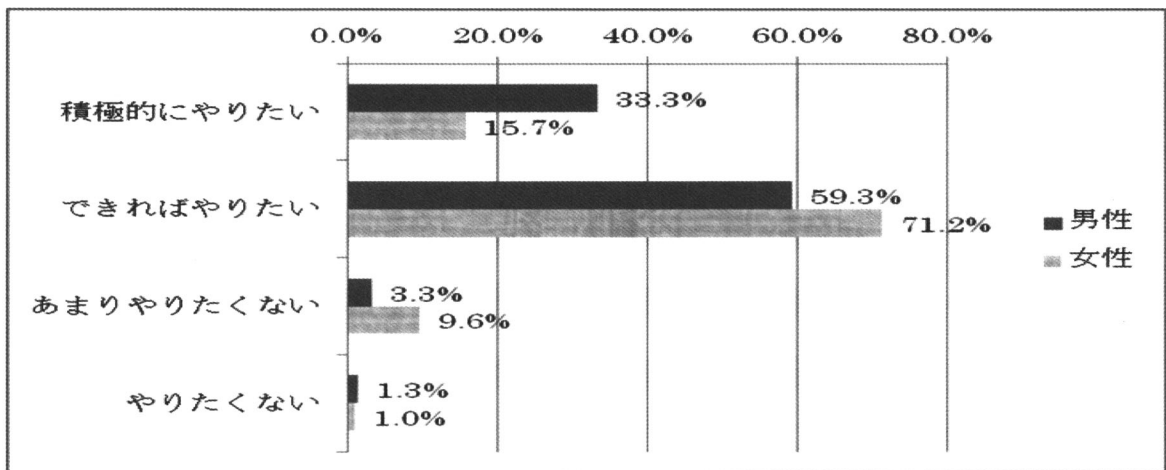


図 14 性別社会貢献意識

年代別に社会貢献意識をみると、「積極的にやりたい」では、80歳代が37.5%（21人）と最も多く、次に50歳代23.5%（8人）、60歳代21.9%（33人）、70歳代19.5%（34人）、40歳代10.7%（3人）の順になっていた。80歳以上が最も社会貢献意識が高かった。「積極的に」と「できれば」を合わせると、40代以上はどの年代においてもほぼ9割が「地域（地域の人）や社会のために役立つことをしたい」と回答している。

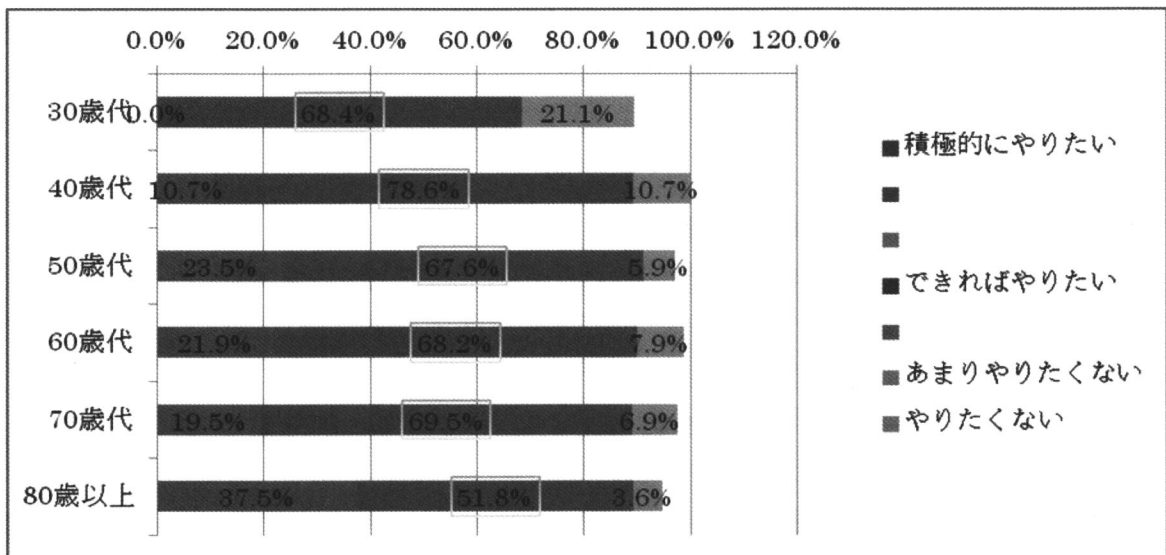


図 15 年代別社会貢献意識

学歴別にみると、図 16 にあるように、「積極的にやりたい」では、大学卒以上が27.8%（22人）で最も多く、次に高校卒22.2%（56人）、中学校卒19.4%（6人）、短大・専門学校卒12.9%（9人）の順になっている。「積極的にやりたい」と「できればやりたい」を合わせると、どの学歴においても8割以上の方が「地域（地域の人）や社会のために役立つことをし

たい」という高い社会貢献意識を示しており、なかでも中学校卒・大学卒以上では9割を超え、特に大卒以上では94.9%（75人）と非常に高い社会貢献意識がみられた。

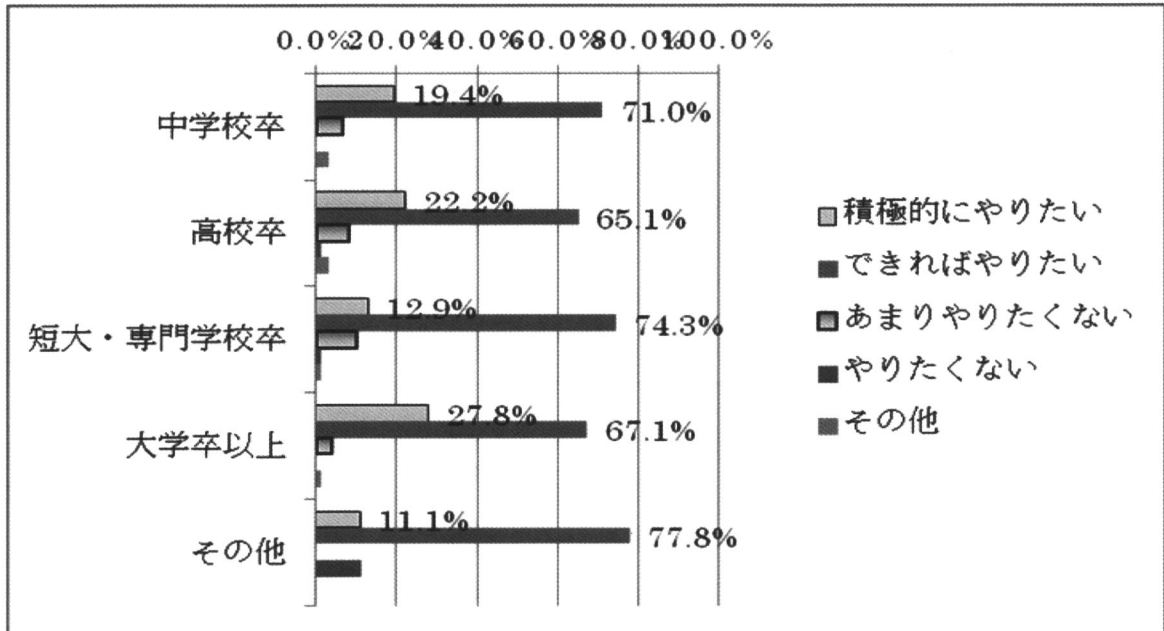


図 16 学歴別社会貢献意識

社会貢献意識を性別・年代別・学歴別に比較してみた結果、いずれの属性にも関わりなく公民館利用者には高い社会貢献意欲がみられた。特に、男性の80歳以上の高学歴者は最も社会貢献意欲が高かった。

また反対に「あまりやりたくない」は、比率としては極少ないが、30歳代から40歳の若い世代に1~2割みられた。これは、年代的にみて仕事や子育ての真っ最中であることが推測される。しかしながら、若い世代においても約7割が「できればやりたい」と回答している。

7 社会貢献意識（意欲）と学習活動・地域活動

社会貢献意識（意欲）と属性、学習活動、及び地域活動全ての項目との相関関係をみると、最も相関関係が強いのは、表1にあるように「地域への愛着」であった。次に、学習活動においては「高齢者教室」、地域活動においては「子育て支援活動」と「教育・文化活動」に、 $p < 0.5$ 水準で有意な相関関係があることが明らかになった。これらの活動について詳細にみてみよう。

表1 社会貢献意識（意欲）との相関関係

モデル		係数*				t 値	有意確率
		標準化されていない係数		標準化係数			
		B	標準偏差誤差	ベータ			
1	(定数)	3.805	.076			50.272	.000
	地域への愛着	-.391	.042	-.432		-9.315	.000
2	(定数)	3.727	.076			48.817	.000
	地域への愛着	-.376	.041	-.416		-9.136	.000
	子育て支援活動	.267	.064	.192		4.210	.000
3	(定数)	3.666	.079			46.501	.000
	地域への愛着	-.362	.041	-.400		-8.797	.000
	子育て支援活動	.224	.065	.160		3.443	.001
	教育・文化活動	.159	.058	.129		2.745	.006
4	(定数)	3.629	.080			45.148	.000
	地域への愛着	-.354	.041	-.391		-8.605	.000
	子育て支援活動	.230	.065	.165		3.557	.000
	教育・文化活動	.145	.058	.117		2.488	.013
	高齢者教室	.138	.064	.097		2.145	.033

(1) 高齢者教室

高齢者教室は、概ね65歳以上を対象に市の委託事業として年間約10回開催されている。学習内容の一例をあげると、音楽鑑賞・子育ては地域と共に・防災について・郷土を知る・健康管理・食の安全・人権学習・人生講話などである。特に人生講話などに参加者が多い。また、全般的に年間を通して参加率が高く、途中退講することはあまりなく元気な間は継続して参加する生涯現役受講生が多い。高齢者教室の特徴として、公民館の学習活動で唯一男性の参加者が多いことが挙げられる。社会貢献意識（意欲）と相関関係がある要因は、先にみた年代・性別による「積極的」な社会貢献意識（意欲）が作用していると思われる。

(2) 子育て支援活動及び教育・文化活動

子育て支援活動及び教育・文化活動は、地域と公民館の連携協働で行われている場合が多く、その概要を、各地区の主要年間行事と公民館の子育て支援に関わる社会教育委員会の報告書⁶⁾を参考にしてまとめると以下のようである。

松崎地区・公民館 どんど焼き、三世代交流ふるさと再発見学習、歴史探訪ウォークラリー、勤労生産的体験学習（たまねぎ、さつまいもの収穫等の事業を年4回開催）、三世代交流輪飾りづくり、親子料理教室、クリスマス会等。

華浦地区・公民館 どんど焼き、三世代交流輪飾りづくり、子ども生け花教室（毎月）、昔の遊びの伝承活動、親子料理教室、クリスマス会等。また、日々の活動として、小学校児童の登下校時の交通安全の見守り、子どもを巻き込んだゴミの収集分別等。

華城地区・公民館 どんど焼き、三世代交流ウォーキング大会、三世代交流みかん狩り、三世代交流もちつき大会、スケッチ大会、図画工作教室、科学工作教室、輪飾りづくり、親子料理教室、クリスマス会等。

小野地区・公民館 小学生サマーチャレンジ（木工・絵手紙・茶道・琴等の指導）、サマーフェスタ、小野リンピック、青少年の集い、モリアオガエルの観察会、佐波川探検、親子料理教室、クリスマス会等。

以上のように様々な子育て支援活動が各地区においてなされている。これらの活動は、子育て支援活動でもあり、また、教育・文化活動でもある。つまり、教育・文化的観点から高齢者が中心になって、子育て支援活動を行っている地域の実状である。また、子育て支援活動に携わっている人たちが、「地域に役立つことができた」という高い充足感を得ていることが男性 93.9%（31人）、女性 92%（46人）と示されている。

ひとつエピソードを紹介したい。華浦地区で、交通安全の見守り活動等を10年以上続けている高齢者教室のHさんは現在88歳である。彼は自分の最も大切な宝ものだと言って中学生⁷⁾からもらった手紙を見せてくれた。それにはこう書かれてあった。「Hさんは地域のためにつくしてくれるすごい人だなあと改めて思いました。雨の日も子どもたちが安全に登校できるように見てくださったり、ゴミの分別などもあり85歳という年齢なのにここまでしてくださるなんて素晴らしいと思いました。ぼくは、今日の話で、Hさんみたいに常に人に役立つような人になりたいと思いました（原文のまま）」。

これは、中学校1年の男子生徒からHさんに寄せられた礼状であるが、「高齢者教室」・「教育文化活動」・「子育て支援活動」が、社会貢献意識（意欲）と相関関係がみられる一つの実例である。

8 考察

この調査から明らかになったことは、公民館利用者は、学習活動のみではなく、多くの人自身が自身の学習活動と共に、地域活動にも参画していたことである。公民館での学びが地域社会へ還元されていないのではないかと、また、先行研究⁸⁾にみられるボランティア活動の少なさが危惧されていたが、多くの公民館利用者に極めて高い社会貢献意欲がみられ、また実際に社会貢献活動を行っている実態が明らかになった。公民館利用者の高い社会貢献意欲が鮮明に映し出されたのである。このことから、公民館利用者は、自身の学びを地域へ還元して

おり、社会貢献活動を促進する人的資源になり得ると言える。

また特に、子育て支援活動、教育・文化活動に取り組んでいる人たちに、高い社会貢献意識が見られた。改めて、高齢者にとっては、教育的観点からの子育て支援活動は、強い社会貢献意欲につながることを示唆された。

現在、防府市では新しい取り組みとして、小・中学校のコミュニティ・スクール事業が進められており、公民館と協働連携して、子どもたちの健全育成への住民参加の動きが始まっている。これは、学校や子どもたちだけではなく、社会に役立ちたい高齢者や公民館利用者にとっても、新たな社会参加の場が創出されることになる。

一般的に、公民館利用者や意欲ある高齢者の存在は、あまり広く知られておらず、また、それらを活かす活躍の場や機会が十分に用意されていない。需要と供給がうまく結びついていないように見受けられる。

公民館のような地域活動の拠点において、高齢者の社会参加・社会貢献活動の仕組みづくりが構築され、社会のために役立ちたいとする人々の、社会参加の場や機会の確保の充実体制が整備されることが望まれる。

[注]

- 1) 高野和良、2008、『農村高齢者の社会参加によるアクティブ・エイジングの実現に関する研究』p1。
- 2) 同上掲 p1。
- 3) 防府市教育委員会の『防府市公民館等利用者アンケート調査及び防府市の生涯学習に関する意識調査(2010)』p27。
- 4) 平成 24 年度 防府市教育委員会資料。
- 5) <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a12500/jinko/jinko.html> 平成 25 年 12 月末。
- 6) 平成 25 年度 防府市社会教育委員の会議報告書『防府市における学校・家庭・地域の連携・協働についての具体的な方策について』p19-26。
- 7) 桑山中学校 1 年 F 君の手紙 平成 21 年 9 月 16 日桑山中学校 1 年「道徳」授業の講師として招かれた時の礼状。
- 8) 防府市教育委員会の『防府市公民館等利用者アンケート調査及び防府市の生涯学習に関する意識調査(2010)』。

[参考文献]

- 高野和良、2008、『農村高齢者の社会参加によるアクティブ・エイジングの実現に関する研究』研究成果報告書。
- 前田信彦著、2006、『アクティブ・エイジングの社会学——高齢者・仕事・ネットワーク』ミネルヴァ書房。

所属：山口大学大学院東アジア研究科

E-Mail アドレス：hitomi_h@c-able.ne.jp